

## 第4回年次大会報告

### 第4回年次大会 テーマ「宗教と環境」

平成22年11月20日(土)・21日(日)、「伊勢国際宗教フォーラム」第4回年次大会が開催されました。テーマは「宗教と環境～宗教者としての環境の観点と受容」。悪化の一途を辿る地球環境に対し、宗教者は如何に関わってゆくべきかについて、専門家の基調講演・発題をもとに議論を深めました。

恒例の聖地見学会は、三重県伊勢市の神宮宮域林を見学。神宮技師・村瀬昌之氏の案内のもと、式年遷宮御用材を育成する第二宮域林を訪問。その後、志摩市磯部町の皇大神宮別宮伊雑宮および伊雑宮所管社佐美長神社を参拝しました。



翌21日は、皇學館大学伊勢学舎において年次大会を開催。

兵庫県立大学教授・岡田真美子氏より、「環境に対する宗教者の観点と受容」の基調講演が行われ、地球の許容量を超えた人口爆発がこのまま続けば、何らかの事態が起きるのは必定であること、人口爆発に比例して、地球環境の悪化も深刻化しているなどの実例が報告されました。また、平成22年度修行体験報告(坐禅体験・禊体験・山岳修行体験)が行われました。

午後からは、秋草学園短期大学教授・中村陽一氏と、國學院大學准教授・中山郁氏による基調発表。中村氏の演題は「神道における環境に対する観点」で、江戸時代を参考とした指摘や、神道の可能性についての発表がありました。中山氏は「神仏の曼荼羅世界をあるく一修験道の修行と環境観」と題し、自らの修験体験を基に発表。修験道における山岳修行とは、自然環境と自身を隔てる壁を薄くして交歓・一体化を目指すものであること、そして自然そのものを神仏とする思想は、山の尊重や自然林保護へとつながった点等を指摘され、修験道は環境問題に取り組む上で重要な可能性を秘めていると結ばれました。その後、皇學館大学教授・櫻井治男氏が加わりパネルディスカッションを開催。質疑応答や意見交換がなされた結果、来年度以降も「宗教と環境」というテーマで、議論を深めようという点で一致し、閉幕を迎えました。

# 宗教の枠を超えた新しい価値観の創造をめざして

— 世界に広がる平和の指針となる価値観の創造 —

私たちが生活する現代の日本の社会は、科学や技術の進展に伴い、今までにない快適で便利な社会となり、高度な文明を享受するようになりました。巷間には物があふれ、自由に何でも実現することができるような錯覚さえ生じています。世界を見渡せば、経済はすでに深く繋がり、多くの国々が連携するようになりました。しかし、ひとたび目を転じると、この現実の社会の中に大きな問題が生じつつあることも否定できません。

その一つは、経済の充実、物質的な豊かさこそが人間の幸福の最大なるものであるように考えられるに至り、すべての価値が金銭に換算されるようになったことでありましょう。さらには、経済のグローバル化の中で、私たちも、否が応にも世界経済の中に組み込まれ、それが新たな緊張をも生み出すことになりました。

また身近なところを見ても、利潤の追求を第一義と捉える人が増え、人々の生き方にも大きな変化が生じました。自分のことだけを考える利己的な人々、退廃的に生きる人々、働く意欲を持つことができず引きこもる人々など、今までには考えられなかった価値観さえ生

まれ、社会の中に混乱と格差が目につく時代となってしまいました。価値観の変化というよりは価値観を喪失した時代というのが現代なのかも知れません。

しかし、歴史を振り返ってみますと、私たちのこの国は、古来より仏教や儒教、道教などの外来思想を受容しつつ、豊かで繊細な自然環境の上に、世界でも比類のない独自の精神文化を築いて参りました。特に紀伊半島を中心とする地域は、海と川と霊峰から成る聖域を形成しており、いくつもの歴史的な大事件を飲み込みつつ霊性の基層を守ってきました。とりわけて紀伊半島の東に位置する伊勢の神宮は、太古より今日に至るまで、人々の精神的な拠り所となり、第六十二回を迎える二十年に一度の遷宮は、その都度、わが国の再生を祈る行事として引き継がれています。

ここに、今日混迷する時代にあって、現代社会の新生に向かって有志一同が伊勢の地に集い、我が国の基層精神を再認識しつつ、世界に広がる平和の指針となる価値観の創造をめざし、日本及び世界の宗教関係者・研究者のフォーラム設立を発起する次第です。